

## 7. 教育研究等環境

## 中期目標

- 【目標1】 教育研究等を支援する環境を適切に整備する。  
 【目標2】 学生・院生並びに教職員の教育研究環境を多角的に支援できる図書館サービスを展開する。  
 【目標3】 大学構成員の立場に立ったキャンパス環境の整備を行う。

## (1) 全学教務委員会

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 初年次教育における修学基礎力の向上を目的として、教養科目群でSAを配置する。 [1-2] e-learning 利用環境を組織的に整備し、定期的な利用講習やコンテンツの作成補助等を行うことで、講義時間外学習時間の確保、繰り返し学習による知識の定着、資格試験準備対策等のための教材作成に向けた授業支援を行う。		[1-1] ①授業評価アンケート ②GPA分布・推移 ③単位取得状況分布・推移 [1-2] ①教育支援に対する教員満足度	
2016年度	<b>年次計画内容</b> [1-1] SAを初年次のピアサポートを、入学時のみならず、その後の授業にまで展開する方策を検討する。 [1-2] e-learningを基本科目の反転授業へ使う方法を担当者と協議し試行的に実施する。	<b>計画実施状況</b> SAと担当教員を対象に、SAに関するヒアリング調査を行い、実態把握と課題等を洗い出した。 2017年度SA研修会の実施について、戦略的予算が認められたため、実施に向けて全学教務委員会にて検討した。SA採用予定教員を対象とした説明会を開催した。 一部科目で授業映像の記録、配信がなされているが、反転授業として取組に至っているか確認はされていない。 「論述・作文」、「教養英語B」において情報ポータルや Moodle を利用した教材の事前配信が実施されている。 2017年度道民カレッジのインターネット講座に参加することを決定した。	<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b> 達成度75% 中期目標を検証するための【指標】について、次年度見直しも含めて検討したい。 達成度0% 中期目標を検証するための【指標】について、次年度見直しも含めて検討したい。
2017年度	<b>年次計画内容</b> [1-1] 学生間、特に初年次学生間のピアサポートを促す一助として、SAを活用する。SAの専門性を高める研修とともに、SAを有効活用するための教員研修を行なう。 [1-2] インターネットを利用した授業配信や、学習資料のwebを通じた常時利用について、科目担当者や情報処理課と共同して検討する。実践例を収集し「10分FD」等で周知を図る。		

## (2) 図書委員会

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[1-1] 各種図書館ガイダンスのあり方を見直し、学生の有効な図書館利用を促進する。 [1-2] 教員の図書館利用環境について調査し要望があれば、有効な改革を検討し実現する。 [1-3] 新書庫設置の可能性を追求しつつも、現状書庫の有効活用のため、利用度の低い資料の整理を行うなど収納スペースの確保を行う。		①利用者アンケート ②各種図書館利用度数 ③書架スペースの棚数 ④資料増減量	
2016年度	<b>年次計画内容</b> [1-1] 新入生オリエンテーションでは図書館利用の動機付けを行う。論述・作文と連携した情報リテラシーガイダンスを前期・後期に実施し情報リテラシー能力の向上を図る。 ゼミガイダンスにおいては、その有用性を周知しゼミにおける図書館利用の需要を拡大する。 [1-2] ラーニング・コモンズにおいて、教員が図書館を活用した講義を効	<b>計画実施状況</b> ①新入生オリエンテーションは4月5日から5月6日にかけて、全学部・学科の基礎クラス対象に図書館の基本的な使い方の説明及び図書館ツアーを実施した。 ②情報リテラシーガイダンスは、全学共通科目論述作文と連携し、前期は5月中旬にOPACでの図書検索・館内での所在確認、新聞記事データベース、マイライブラリの使い方等の説明を教室で行い、図書館で演習課題を行った。後期は10月中旬に今年度から導入した電子書籍(地球の歩き方シリーズ)の利用法、CiNiiを活用した雑誌論文検索と所在確認・入手方法について、Japan Knowledgeの活用法の説明を教室で行い、図書館で演習課題を行った。 ③ゼミガイダンスは3年次・4年次のゼミを対象にゼミの担当教員と図書館担当でガイダンス内容を吟味しゼミの課題にあった資料の紹介やデータベースの使い方の説明を行い、実習課題で知識の定着をさせている。前期1ゼミ(人文)、後期4ゼミ(人文・経済)の合計5ゼミに対して実施した。ゼミガイダンスについて実施件数は少ないが、図書館での資料利用を必要とするゼミに対して継続して実施する。同時に、需要を喚起するためPRの工夫を行う。 10月3日にラーニング・コモンズをオープンし、グループ学習を行う学生・教員に活用されている。	<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b> ①利用者アンケートに基づく達成状況 情報リテラシーガイダンスのアンケートの実施結果は、前期では81.5%、後期では74%の学生がガイダンスは役に立つとの評価であり、また、職員のプレゼンについて前期で74.5%、後期で68.9%の学生がわかりやすかったと評価している。昨年度と比較して大きな差はなかった。これらの数字については経年変化を見て検証していきたい。 ②ガイダンス実施件数(図書館利用度数)に基づく達成状況 ゼミガイダンス：当年度の実績は5件であった。 中期目標の達成状況の観点から、引き続きガイダンスを中心としたサービスの充実を図って行く。 なお、ガイダンスの質的な問題は現状では発生していないと判断している。 教員への希望調査は実施していないが、教員からのラーニング・コモンズ内での講義実施、グルー

7. 教育研究等環境

	果的に行えるように教員の要望を調査し、必要とされる利用環境の整備と支援を行う。	教員によるラーニング・コモンズの活用については、要望調査は実施しなかったが、多くの教員から利用についての問い合わせがあり、図書館として教員からの要望に応える体制を整備し、利用相談や施設予約に対応した。	プワーク等の実施、機器の利用など様々な要望に対応した。
	[1-3] 前年度からの図書委員会方針に従い利用度の低い資料を整理し配架スペースを確保する。並行して、新キャンパス計画に基づく書庫増築を早期に実現するため関係部署に働きかけを行う。	2016年度はNDC400番台の書庫狭隘除籍で2,501冊を除籍し配架スペースを創出した。また、C書庫にある資料の一部を3層書架の最上段に移動しC書庫に配架スペースを創出した。同時に71万冊収容の積層式集密書庫及び同書庫の上に新たな閲覧環境を設ける書庫増築計画(案)を策定し常務理事に提出した。 2017年2月22日の理事会・評議員会において「図書館書庫と閲覧室(自学自習環境)の整備」を盛り込んだ「財政再建計画2016」(第2事案)及び2017(平成29)年度事業計画及び収支予算(案)が承認された。今後、図書委員会としては、理事会の決定にもとづき書庫及び閲覧室の増築について具体的な対応を行うこととした。	①書架スペースの棚数に基づく達成状況 書庫狭隘化対策除籍をB書庫400番台で実施し棚板枚数で約83棚のスペースを確保した。 また、C書庫の米国法令集を3層書架の最上段のデッドスペースに移動させ、C書庫に216棚のスペースを確保した。
2017年度	<b>年次計画内容</b>		
	[1-1] 新入生オリエンテーションでは図書館利用の動機付けを行う。論述・作文と連携した情報リテラシーガイダンスを前期・後期に実施し情報リテラシー能力の向上を図る。ゼミガイダンスにおいては、その有用性を周知しゼミにおける図書館利用の需要を拡大する。 新たにデータベース毎の利用ガイダンスを実施する。		
	[1-2] ラーニング・コモンズを効果的に活用する方策を検討し利用環境の整備に努める。		
	[1-3] 理事会の決定に基づき、書庫及び閲覧室の増築について具体的な対応を行う。必要に応じて除籍を行い配架スペースを確保する。		

(3) 研究支援委員会

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 個人研究費の次年度持ち越しのための研究を行う。 [1-2] 研究業績をデータベースシステムへ入力する仕組み・仕組み・支援体制を整備する。		[1-1]他大学の状況を調査し、本学における実現可能性を見極める。 関係部署に実現性の研究をしてもらう。 [1-2]研究業績記入等教員の最低限の義務事項をまとめ、研究業績の公表義務を周知すると共に、研究費支給の一条件とすることの検討を始める。また所属長から働きかけを行うと同時に、アクティビティの高い教員を評価する(表彰等)。	
2016年度	<b>年次計画内容</b>	<b>計画実施状況</b>	<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b>
	[1-1] (個人研究費関係) (1) 個人研究費次年度持ち越しの調査を基にその実現可能性を検討する (2) 傾斜配分の検討を行う	(1) 若干の検討はしたが、成案には至らなかった。 (2) 議論には至らなかった。	(1) 委員会で検討を始めた。次年度の継続審議とする。 (2) 計画通りできなかった。
	[1-2] (研究業績関係) (1) 業績登録、その情報の効率的利用、評価のためのシステム構築を行う (2) 研究アクティビティの高い教員の評価体制を構築する	(1) 業績登録を researchmap に移行作業を進めた。 (2) 業績評価に関して内部の基準で行うことの困難さが一層顕在化したため、情報の収集という段階で収めた。	(1) 計画通り達成した。 (2) 計画通りできなかった。
	[1-3] (在外・国内研究員制度) (1) 選抜方法の見直しを検討する。	(1) これまでのポイント制の見直しを行い、基本的条件のみを示した方式に変更した。	(1) 計画通り達成した。
2017年度	<b>年次計画内容</b>		
	[1-1] (個人研究費関係) (1) 個人研究費次年度持ち越しの調査を基にその実現可能性を検討する (2) 傾斜配分の検討を行う (3) その他、個人研究費の柔軟な運用の可能性を検討する。 [1-2] (研究業績関係) (1) 業績登録を researchmap に移行したので、その情報の効率的利用、評価のための運用方法を検討する。 (2) 研究アクティビティの高い教員の評価基準について検討する。 [1-3] (在外・国内研究員制度) (1) 2016年度に見直した、新たなルールで執行し、チェックしていく。		

(4) 電子計算機センター運営委員会

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 教育研究システムの安定運用を図る。 [1-2] e-learning 利用環境を組織的に整備するなど、教員のニーズに合わせた授業支援を行う。 [1-3] 情報基礎科目の履修学生に対する学習支援を継続的に行うとともに、躰きのパターンを分析し、その情報を担当教員と共有することで、学生の理解度を高める工夫を行う。 [1-4] ICTを活用した教育支援・学生支援の有益な情報収集を行うため、電子計算機センター運営委員若しくは情報処理課職員を各種研修会等に派遣し、本学にマッチして		[1-1]情報教育システム課題管理表 [1-2]情報教育環境に関する調査 [1-3]情報基礎科目相談内容一覧 [1-4]研修報告、情報教育環境調査 [1-5]字幕挿入実績一覧、字幕挿入に関するアンケート調査等 [1-6]情報教育環境に関する調査	

	いると思われる試みを積極的に取り入れる。 [1-5] サポートデスクスタッフがやっている映像教材への字幕挿入活動を教員に積極的にアピールし、利用してもらう事で、聴覚に障がいのある学生への講義保障支援を実施する。また、聴覚に障がいのある学生との懇談会を定期的実施することで、よりわかりやすい字幕挿入の仕方を追求しつづける。 [1-6] 情報教育システム、アクティブラーニング教室といった新しい施設設備の有効活用を検討する。		
2016年度	<b>年次計画内容</b>	<b>計画実施状況</b>	<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b>
	[1-1] 教育研究にかかるインターネット環境を整備する。	2017年度基幹ネットワークシステム機器更新に向けて機器の更新条件をまとめ、3社から更新の提案をうけた。また未整備だった学認 idP 運用規程を制定した。	保守サポート切れになる機器を更新することで安定運用が担保される。
	[1-2] 継続し moodle の機能改善および安定運用を図る。	2016年度もキャンパス e-learning システム(Moodle LMS)は安定運用されている。広範囲に必要な支援提供を行った。具体的内容は以下の通り。 ・年数回のセキュリティパッチ適用 ・アップデートとサーバパフォーマンスの最適化 ・全学的な新生向け Placement Test の管理 ・カスタムプラグインの導入とトラブルシューティング ・年間 200 以上のコース作成(学期ごと) ・教務課のための出席入力のコディネート e-learning への要望調査は年度当初行ったが、特段の要請は無かった。	最新の動作環境を調査し必要な手当を行うことにより安定稼働を維持している。
	[1-3] サポートデスクスタッフと連携し、情報基礎科目の履修学生に対する学習支援の充実を推進する。	例年通りサポートデスクスタッフによるレポート課題の支援を行った。また後期末には教室を確保し、質問を受け付ける講習会も実施した。	支援講習会の相談内容をまとめ、分析することで履修学生の弱点を把握できた。
	[1-4] 引き続き研修会等に参加し、参加者からの情報を共有した上で、本学への適用を検討する。	学外研修は私情協「教育改革 ICT 戦略大会」と「Moodle Moot 2017」へ参加した。前者では本学の教育用 PC デュアルブート環境について発表も行った。どちらも電子計算機センター運営委員会にて参加報告され情報共有された。	情報収集を行い、情報共有が実現できた。
	[1-5] アクセシビリティ委員会と協力して字幕挿入を行っていることを周知し、積極的に利用してもらう。現在の字幕挿入の方式が最善なのかを検証し、より良いあり方を追求する。	場面・状況により文字色を変えることの検討を行った。	文字色を変えることは現状使用しているソフトでは実施不可能であることが判明した。
	[1-6] 教育用パソコンのデュアルブート環境を充実させるための検討を進める。	検討を進め、業者から 3 段階の提案を受け、2017年度予算要求した。	予算は採択されなかった。
2017年度	<b>年次計画内容</b>		
	[1-1]教育研究にかかるインターネット環境を更新する。 [1-2]継続し moodle の機能改善および安定運用を図る。 [1-3]サポートデスクスタッフと連携し、情報基礎科目の履修学生に対する学習支援の充実を推進する。 [1-4]引き続き研修会等に参加し、参加者からの情報を共有した上で、本学への適用を検討する。 [1-5]効果的な字幕挿入を検討し、必要に応じて字幕入れソフトの更新を検討する。 [1-6]パソコン教室の環境を見直し、充実させるための方策を検討する。		

## (5) 情報セキュリティ委員会

	<b>中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)</b>	<b>達成度評価指標【指標1】</b>	
	[1-1] 個人情報の適切な保護と有効活用を行うため、個人情報に関する諸規程やガイドラインの見直しを常に行う。 [1-2] 学内ネットワークについて、適切なセキュリティ対策を施し、安全かつ安定的に運用を行う。 [1-3] 学生・教職員等の利用者に対し、継続的な注意喚起を行うことでセキュリティに対する意識を向上させ、インシデントを未然に防ぐ体制を維持する。	[1-1]個人情報に関する諸規程、ガイドラインの確認 [1-2]セキュリティ対策作業実績 [1-3]注意喚起等実施実績(内容含む)、インシデント履歴	
2016年度	<b>年次計画内容</b>	<b>計画実施状況</b>	<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b>
	[1-1] 既存する諸規程やガイドラインの見直しと、個人情報保護規程の制定を目指す。	個人情報保護規程の制定に向けて学内調整した。	個人情報保護規程を制定した。
	[1-2] 学内各システムについて脆弱性が報告された場合、迅速かつ適切なセキュリティ対策を実施する。	引き続き学内各システムの脆弱性チェックを行い、必要な手当を行った。	特に図書館ウェブサイトシステムについて脆弱性を抱えた古いシステムであったことが判明し、更新を行った。
	[1-3] 事例が学内外にかかわらず、周知する価値があると思われるセキュリティ	セキュリティインシデントの実例を周知した。	本学での事故発生を未然に防ぐために、全国大学で発生したセキュリティインシデ

	インシデントは注意喚起を行う。	ントについて全教職員へ周知した。
2017年度	<b>年次計画内容</b>	
	[1-1] 機器の更新、利用環境・セキュリティ対策等の変化および、昨年度制定された個人情報保護規程と照らし合わせ、既存のガイドラインを見直す。	
	[1-2] 基幹ネットワーク更新に伴い、電子計算機センター運営委員会と連携し新ネットワークのセキュリティ対策を講じる。	
	[1-3] 引き続きセキュリティインシデントについて周知し、注意喚起を行う。インシデント発生未然防止に向けた啓発を行う。	

**(6) コラボレーションセンター**

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
	<p>[1-1] 実践的な学び、課題解決型学習 (Project-Based Learning) を効率的に進める環境を組織的に整備する。</p> <p>[1-2] 学内ワークスタディの推進・拡大を通じて学生の就業力及び社会的資質の一層の向上を図ると同時に、経済的事情を抱える学生への支援機会を広く提供する。</p> <p>[1-3] 実践的な学び、課題解決型学習 (Project-Based Learning) および能動的な活動に対する支援として、ピアサポーター (学生スタッフ) を配置する。ピアサポートによる学生同士の学び合いによる「学生がともに育つ相乗効果」の場を提供する。</p> <p>[1-4] 学生の就業力を高めるために、学生発案のプロジェクトを支援し、学生の自主性、能動性を伸張させる。</p> <p>[1-5] すべての学生が有意義な学生生活を送れるようにするために、学生生活への不適應を解消し、イキイキと活躍できる「居場所」を提供する。</p> <p>[1-6] 大学 (第一キャンパス) の中心に位置する施設として、大学教職員、地域社会との協同を推進する。</p>	<p><b>【1-1】</b></p> <p>①コラボレーションセンター利用実績 ②学生満足度調査 (アンケート) ③教育支援に対する教員満足度調査</p> <p><b>【1-2】</b></p> <p>①学生スタッフ勤務実績 ②進路決定状況 ③補助金交付状況</p> <p><b>【1-3】</b></p> <p>①コラボレーションセンター利用実績 ②学生満足度調査 (アンケート) ③教育支援に対する教員満足度調査</p> <p><b>【1-4】</b></p> <p>①プロジェクト活動参加人数 ②進路決定状況 ③学生満足度調査 (アンケート)</p> <p><b>【1-5】</b></p> <p>①コラボレーションセンター利用実績 ②学生満足度調査 (アンケート)</p> <p><b>【1-6】</b></p> <p>①施設使用状況 ②教育支援に対する教員満足度調査</p>
2016年度	<b>年次計画内容</b>	<b>計画実施状況</b>
	<p>[1-1]</p> <p>(1)実践的な学び、課題解決型学習 (Project-Based Learning) を効率的に進めるための環境整備のため、必要な備品等を備えるとともに、施設説明会の実施や機器の使用手引書を作成するなど、施設の利用支援等を学生スタッフとともに挙る。</p> <p>(2)企業と連携した商品開発や、店舗運営など、実践的な学びの機会を提供する。</p> <p>(3)課題解決型学習 (Project-Based Learning) を効率的に進める環境づくりのため、コラボレーションセンター所員、学生スタッフ、担当事務局職員を他大学等への視察や各種研修会等に派遣し、情報収集活動を行う。</p> <p>(4)『コラボレーションセンター年報』を発行し、センター運営に係る情報を全学的に共有する。</p>	<p>[1-1]</p> <p>(1)学内で開催された「FD 委員会」に学生2名と職員が参加し、先駆的な取り組みの事例紹介の説明を受けた。また、B201アクティブラーニング教室内での範囲を超えて、エントランス等でも積極的に機器を活用し、PRに努めた。</p> <p>(2)大学開学50周年に向けた取り組みとして、「オリジナル商品開発プロジェクト」を立ち上げた。地元江別の製菓店にご協力いただき試作品を完成することができた。試作品については、エントランスで試食会並びにアンケート調査を実施し、商品化に向けて着実にプロジェクトを進めることができた。当プロジェクトについては2017年度についても継続して実施する予定である。</p> <p>(3)学生3名を引率し、北星学園大学の学習サポートセンターを視察した。先方の学生スタッフとも交流を行った。</p> <p>(4)前年度に引き続き、コラボレーションセンター年報第2号を発刊した。特に学生発案プロジェクトの活動内容を中心とした内容にした。</p>
	<p>[1-2]</p> <p>(1)学内ワークスタディを推進するため、「学内ワークスタディに関する規程」に基づき、コラボレーションセンターの事業運営を担う学生スタッフを採用する。</p> <p>(2)学生スタッフの業務における各種研修やOJTによって、学生の就業力及び社会的資質の向上を図る。</p>	<p>[1-2]</p> <p>(1)前後期と2回学生スタッフの募集を行い、9名のスタッフを採用した。</p> <p>(2)アクティブラーニング教室の機器の研修並びにスタッフ間での「他者評価」を研修の一環として実施した。</p>
		<p><b>【1-1】</b></p> <p>資料: コラボレーションセンター利用実績 資料: 学生満足度調査 (アンケート) (調査中) 資料: 教育支援に対する教員満足度調査 (調査中)</p> <p><b>【1-2】</b></p> <p>・学生スタッフ勤務実績 (9名/2016.4月～) 勤務総時間 5,055 時間 10 分 学生スタッフ最大 693 時間 25 分 学生スタッフ最小 222 時間 40 分 学生スタッフ一人当たり 平均 561 時間 41 分</p> <p>・進路決定状況 学生スタッフ卒業対象者 2 名 →2 名 (道内、道外企業に内定)</p> <p>・補助金交付状況/2,403 千円 (未確定)</p>

<p>[1-3]</p> <p>(1)学生スタッフによる、学生が学生を育てる「共育」活動（ピアサポート）を展開する。</p> <p>(2)LINE@および Facebook ページによる新入生（入学手続き者）からの相談窓口を開設し、新入生の不安軽減を図る。</p>	<p>[1-3]</p> <p>(1)在学生並びに新入生に対してのピアサポートとして、臨時のカウンターを3月下旬からエントランスに設置し、学内各所への橋渡し役となるピアサポートを実施した。また、LINE@、Facebook ページによる新入生からの相談窓口を開設し、新入生6名から15件の質問があり、学生スタッフによる対応を行った。</p> <p>(2)新入生の入学後の不安を軽減する目的で、「入学前謎解きイベント」を実施し、新入生36名の参加があった。</p>	<p>[1-3]</p> <p>資料：コラボレーションセンター利用実績 資料：学生満足度調査（アンケート） 資料：教育支援に対する教員満足度調査</p>
<p>[1-4]</p> <p>(1)学生が中心になって構想、計画する学生発案型のプロジェクトを募集する。</p> <p>(2)本学のブランド力を高めるために、学生発案型プロジェクトを支援し、これを学外に向けて積極的に情報発信する。</p> <p>(3)プロジェクト遂行の方法論（プロジェクトマネジメント）を学生に身につけさせる方法を検討する。</p>	<p>[1-4]</p> <p>(1)「学生発案プロジェクト」の募集を行い（追加募集を含めて2回）、今年度は6件（継続3件、新規3件）を採択した。</p> <p>(2)採択されたプロジェクトについては、中間報告会（11月開催学びライブと同時開催）を行い、進捗状況について早い段階で確認できる仕組みを構築した。また、最終報告会では互いの報告を見て刺激を受けるための取り組みとして、6台のスクリーンをエントランスに設置した。プロジェクト間の意見交換等も見られ、大きな成果があった。また、北海道新聞の取材も受けた。</p> <p>(3)申請書、中間報告・最終報告会の資料、決算報告書の作成などを通じて、窓口での指導を継続して行った。</p>	<p>[1-4]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト活動参加人数／計35名</li> <li>「携帯用アプリ開発プロジェクト」2名</li> <li>「松山大学との学生交流促進プロジェクト」6名</li> <li>「音声認識を利用した情報保障プロジェクト」2名</li> <li>「子ども食堂「ここなつ」プロジェクト」14名</li> <li>「若者と社会をつなぐ選挙に活気をプロジェクト」4名</li> <li>「TSGプロジェクト」7名</li> <li>・資料：学生満足度調査（アンケート）</li> </ul>
<p>[1-5]</p> <p>(1)友達作りや、学生の交流を促す企画、学生生活上の不安解消、学生生活適応のための企画を実施する。</p> <p>(2)課外活動応援や大学オリジナルのLINEスタンプの制作など、帰属意識を高める企画を実施する。</p> <p>(3)情報ポータルやFACEBOOK ページを通じて、在学生への日常的な情報発信を行う。</p> <p>(4)季節の行事の実施を通して、学内の雰囲気作り（四季の変化を学内に）を行う。</p> <p>(5)「居場所」としての環境を維持、整備する。</p>	<p>[1-5]</p> <p>(1)経営学部新入生ガイダンス、新入生向けに「謎解きゲーム」を実施し、学生生活適応の手助けをした。</p> <p>(2)LINEスタンプ（第2弾）の制作・販売を行った。この取り組みについて、北海道新聞で紹介も紹介された。また、課題活動の活躍を広報するために、試験的にカーリング部の日本選手権のLIVE映像をエントランスのモニターに投影した。</p> <p>(3)情報ポータル、ホームページに加え、Facebook ページ、Twitter アカウント、LINE@アカウントにて継続して情報発信を行った。また、学内には「月報（ポスター）」を作成し、積極的に広報した。</p> <p>(4)昨年度の「雛飾り」に加え「七夕」「クリスマスツリー」「お正月」などの季節を意識した展示を行った。七夕については、一枚の短冊が飾られ、学生、教職員の多くのに参加していただいた。学生国際交流委員会との共催による「SGU Halloween Party」も継続して開催した。</p> <p>(5)エントランスに設置した「利用者の声」、学生スタッフによるゴミ箱（SGU coffee）点検やPC清掃、パソコンデスク用の椅子のクリーニングなどを実施した。</p>	<p>[1-5]</p> <p>資料：コラボレーションセンター利用実績 資料：学生満足度調査（アンケート）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト活動参加人数／計17名</li> <li>「LINEスタンプ制作プロジェクト」6名</li> <li>「SGU Halloween Party」4名</li> </ul> <p>※上記には学生スタッフ含む。 ※ここに記載するのはプロジェクトメンバーのみであり、参加者および利用者については含めていない。</p>
<p>[1-6]</p> <p>(1)高校生や高校教員をターゲットにした企画を実施するなど学外に視点を向けた企画や方策を検討する。</p> <p>(2)地方公共団体、企業、他大学等と連携した企画や事業の可能性を追求する。</p> <p>(3)ホームページやFACEBOOK ページなどのSNS（ソーシャルネットワークワーキングサービス）を活用し、学内のみならず、卒業生、保護者、地域・企業等への情報発信を行う。</p> <p>(4)教員が研究等について語ることを通して、教員のイキイキを可視化</p>	<p>[1-6]</p> <p>(1)大学祭開催に合わせて「謎解きゲーム」を開催した。また、11月の学びライブ（オープンキャンパス）において、高校生向けに施設の紹介とスタッフの活動報告を実施した。</p> <p>(2)学生発案プロジェクトにおいて採択した「国内協定校の松山大学と連携するプロジェクト」のメンバーが中心となって江別市地域連携事業にチャレンジし、採択を受けた。松山大学訪問に合わせて、土佐市（江別市友好都市）にも訪問するなど、地域</p>	<p>[1-6]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料：施設使用状況</li> <li>・資料：教育支援に対する教員満足度調査</li> </ul>

7. 教育研究等環境

	し、高等教育機関らしさをアピールするとともに学生に知的刺激を与える「SGU Science Café（仮称）」をエントランスで開催する。	と連携した取り組みが前進した。このことについても北海道新聞に掲載された。 (3)情報ポータル、ホームページに加え、Facebook ページ、Twitter アカウント、LINE@アカウントを開設し、情報発信を行った。また、創立70周年を記念し、作成した本学の歴史の動画については、同窓会各支部総会等でも広く公開され高い評価を受けた。 (4)「SGU Lunch Time Talk」を6月から計9回実施し、教員の研究活動並びに話題となっているトピックについて発表した。「劇団四季」とのコラボ企画も実現し、多くの学生・教職員が参加した。	
2017年度	<b>年次計画内容</b>		
	<b>[1-1]</b> (1)実践的な学び、課題解決型学習（Project-Based Learning）を効率的に進めるための環境整備として、必要な備品等を備えるとともに、施設使用モデル等を作成し、利用促進を図る。 (2)企業と連携した商品開発や、店舗運営など、実践的な学びの機会を提供する。 (3)課題解決型学習（Project-Based Learning）を効率的に進める環境づくりのため、コラボレーションセンター所員、学生スタッフ、担当事務局職員を他大学等への視察や各種研修会等に派遣し、情報収集活動を行う。 (4)『コラボレーションセンター年報』を発行し、センター運営に係る情報を全学的に共有する。		
	<b>[1-2]</b> (1)学内ワークスタディを推進するため、「学内ワークスタディに関する規程」に基づき、学生スタッフを学年ごとにバランスよく採用する。 (2)学生スタッフの就業力及び社会的資質の向上を図るため、各種研修会への参加や学内のFD,SD委員会主催イベントにも積極的に参加する。		
	<b>[1-3]</b> (1)学生スタッフによる、学生が学生を育てる「共育」活動（ピアサポート）を展開する。 (2)学生スタッフの相談カウンターでの業務内容の幅を広げる。 (3)LINE@およびFacebook ページによる新入生（入学手続き者）からの相談窓口を開設し、新入生の不安軽減を図る。 (4)新入生の友達作りのサポート企画を、入学前に実施する。		
	<b>[1-4]</b> (1)学生が中心になって構想、計画する学生発案型プロジェクトを募集する。 (2)本学のブランド力を高めるために、学生発案型プロジェクトを支援し、これを学外に向けて積極的に情報発信する。 (3)学生発案型プロジェクトの活動報告会を開催し、プロジェクト間のつながりを広める。 (4)プロジェクト遂行の方法論（プロジェクトマネジメント）を学生に身につけさせる方法を検討する。		
	<b>[1-5]</b> (1)友達作りや、学生の交流を促す企画、学生生活上の不安解消、学生生活適応のために、多くの学生が参加できる企画を実施する。 (2)部活動・サークルなどの紹介「部活動・サークル紹介 Time」の開催や応援、大学オリジナルのLINEスタンプの制作など、帰属意識を高める企画を実施する。 (3)情報ポータルやFACEBOOK ページを通じて、在学生への日常的な情報発信を行う。 (4)季節の行事の実施を通して、学内の雰囲気作り（四季の変化を学内に）を行う。 (5)「居場所」としての環境を維持、整備する。		
	<b>[1-6]</b> (1)高校生や高校教員をターゲットにした企画を実施するなど学外に視点を向けた企画や方策を検討する。 (2)地方公共団体、企業、他大学等と連携した企画や事業の可能性を追求する。 (3)ホームページやFACEBOOK ページなどのSNS（ソーシャルネットワークキングサービス）を活用し、学内のみならず、卒業生、保護者、地域・企業等への情報発信を行う。 (4)教員が研究等について語ることを通して、教員のイキイキを可視化し、高等教育機関らしさをアピールするとともに学生に知的刺激を与える「SGU Lunch Time Talk」をエントランスで開催する。 (5)学生と卒業生が交流できる場の提供を検討する。		

(7) 常任理事会

中期計画【計画1】（目標1に対応する計画）		達成度評価指標【指標1】	
講義の担当時間と研究業績の公表等のバランスについて調査し、適切に管理する。		① 講義担当時間推移と研究業績の推移	
2016年度	<b>年次計画内容</b> ・全教員の講義担当時間・教育改善の取り組み・研究業績の状況の把握を継続し、教育研究のより有効な成果を得るために改善すべき点を検討する。 ・専任教員科目と非常勤担当科目の内容を精査し、科目の精選とカリキュラムの改善を検討する。 ・研究活動の不正行為と公的研究費の適正な管理・運営の仕組みを確実に機能させる。 ・FD活動を活性化し、SDとも連携した授業改善を促進する。	<b>計画実施状況</b> ・人文学部4学科を再編し、心理学部の開設、他3学科の改組を行うため、教員の業績の状況確認、教育研究に関わる改善点、心理学部の新たな組織・カリキュラム・3つの方針の組み立て、3学科の改組に伴う組織・カリキュラムの検討作業を進めた。他学部についても、学部改組の内容の検討と新たな組織のための改善点の検討を開始した。 ・教養科目において、科目の精選を進めるとともに、地域連携、グローバルなど現代的課題に応える新たな科目群を設定を検討した。	<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b> ・状況を確認しつつ、改組の中での教員組織の見直しにより、担当時間の偏りの是正、研究業績向上のための環境改善の取り組みを継続している。 ・教養科目を中心に、カリキュラムの改善を進めた。非常勤担当科目についても精選を進めている。また、改組検討の中で、各学部の科目についても検討が進んだ。 ・研究不正の防止と公的研究費の適正管理は、適正に運営された。 ・本年の検討により、授業改善のた

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究不正に関して、教員への周知、内部監査の強化により確実に実施した。</li> <li>・外部組織も活用し、実態把握や問題点の洗い出しを進め、次年度の改善計画をたてた。また、教育成果による教員の表彰制度を試験的に開始し、意欲向上への取り組みを開始した。</li> </ul>	<p>めの具体的な対応策が次年度より本格的に開始される予定である。</p>
2017年度	<p><b>年次計画内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部改組の内容を検討と平行しながら、専任教員科目・非常勤担当科目のバランスにも配慮しつつ、教員組織・カリキュラム・教育研究環境の問題点と改善案を検討する。</li> <li>・2018年度カリキュラム編成にあたり科目を精選されることを要請する。</li> <li>・継続して研究活動の不正行為と公的研究費の適正な管理・運営を確実に実施する。</li> <li>・さらなるFD活動の活性化とSDとの連携を促進する。</li> </ul>		